

今村復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年1月28日(土) 1715～1725 於) 福島県三春町)

1. 発言要旨

今日は御案内のように伊達市、大玉村、そして三春町を視察をいたしました。

伊達市では、JA あんぽ工房みらいを訪問しまして、関係者の方々といろいろな懇談もしました。そして、このあんぽ柿の製造過程を見まして、本当においしそうで、しかも、きちんとつくっておられることを見て、すばらしいなと思いました。

あれを見ると、農産物ではなくて食品産業だなという思いもしたところでもあります。これはいろいろ、何て言いますか、繊維質が非常に多いとか、栄養が高いとか、そういった機能性の高い食べ物だという、そういうこともありますので、そういったところをもっとアピールされたらどうですかというような話もして、そして、これからもいろいろなあんぽ柿もそうありますが、福島の農産物をどんどん売り込んでいく、その正にリーディングバッテリーということで頑張ってもらいたいなというふうに思ったところでもありますし、我々もしっかり支援をさせていただきたいというふうに思います。

それから、大玉村では向山製作所を訪問しまして、生キャラメル製造工程を見学しましたし、また、おいしく食べさせてもいただきました。キャラメルのおいしさもすばらしいけど、非常にやっぱり感動したのは、織田社長さんが本当に情熱を持って何とかやんなきゃいけない、しかもこれは震災前のリーマンショック以来の何回もの危機を乗り越えて、しっかりと従業員を守るために、地域の経済を守るために、頑張ってきた。それがまた震災の後もこういう大変な目に遭っておられますけども、それにもめげず、しっかりとアピールをしていただいて、そして、本当においしいものをつくっていただく。その努力がだんだん今、報われて大変な評判を呼んでいるということで、やっぱりこういった何としても頑張るんだという、その気持ちということに、大変な感動を受けました。

あと、工場の増設の関係でもお話がありましたので、そういったことについても制度的に何か応援できないかということは今、検討するようにと指示をしたところでもあります。

それから、ここ三春町ではこの福島ガイナックスを訪問させていただきました。本当に私も孫がいます。よくアニメを見て、またテレビを見ているなと思っているのですが、今日こうやって見ると、すばらしいやっぱり芸術だなということを改めて感じたところ

ろであります。

本当にテレビで流れるのはごく一瞬でありますけど、それにも大変努力をして描いてありますし、そして、またそのアニメの出来る工程というのも幾つかやり方があってということで、それも大変勉強になりました。

そして、もう一つは、やっぱりこの下絵を描かれる人たちのセンスと言いますか、腕と言うのか、そういったものはやはりちょっと人知を越えたすばらしいものがあるんじゃないかと。これはやはり感性の世界だと思いますから、こういったものを磨くということ、そしてまた磨けるということは、日本人の持っているすばらしいものをまた改めて発見したような気もいたしました。

これから、ですから私も冒頭言いましたように、ちょっとアニメを見る目が変わってきたというのが実感でございます。是非この三春町では、あと、コミュタンというのもあるし、そしてこういう大変ユニークなところもある。そして、元はと言えば三春駒のこの昔のフィギュアみたいなものでしょうが、そういった伝統的なこともあるんで、是非新しいと言いますか、時代のこのいろんなものを発信していく拠点になっていく、本当に名前のおり春を呼ぶ町ということで、これからも頑張ってもらいたいなというふうに思ったところであります。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 復興再生協議会、あと、その後のJA伊達でも、風評払拭について強い要望あったと思うんですけども、大臣はこの風評の現状というか実態と言いますか、そういったものはどのように捉えていますでしょうか。

(答) これはいろんな検査をやって、お米だって全袋検査をやって、あんぽ柿だってそうだし、全く安全なんですよ。そういうことをやっぱりもっともっと強くアピールしようよというのが一つ。

それから、あとはそういったまだそういう安全性が担保できない時には、宣伝して打って出るということもなかなかやりにくかったんでしようけれども、そういったことがちゃんと裏付けが出来ているんだから、それを武器にして徹底的に、あるいは一気に攻勢を掛けようと、いろんな手段を尽くしてですね。

今日は、まだ関西の方がまだというような話もありましたけども、もちろんそれも力を入れますけども、東京という大マーケットがあるんだから、そこにもっと重点を置いて攻めようじゃないかと。

そして、もう一つは流通関係の人などにもお願いすることも大事でしょうけども、もう一つはやっぱり消費者の一番のその実際買

う人ですね、主婦の方とか。そういった方にもっと訴える、そうしていく必要があるんじゃないかと。そういうことで、これは流通の方とも協力しながら、福島産のものを買えばこうしますよというポイント制みたいなのもね、ポイントカードみたいなのを作って、今やろうじゃないかということで、今勉強させていますから、そういうことでとにかく実際の消費者にもっとアピールをするということとか、そういった提案もしてきたところであります。

(問) この6年近く大分消費者にアピールしてきたんじゃないかなとは思いますが、やはりまだもちろん風評があるので、足りない部分もあるのかなと思うんです。流通業者と消費者でいったら、大臣は消費者の方をアプローチする相手としては強いと考えてよろしいですか。

(答) もちろん両方大事ですよ。だけど、やっぱり実際買ってくれる人がね、ああ、これ買おうと。福島の協力にもなるし、そしてまた実際、実も入るわけですよ。たくさん買ってもらえばね。そういうことで売り出すと、今度は流通に携わる人たちも、おい、これはちょっと福島の品をしっかりと確保せんといかんぞということで、自然と需要供給の関係でいくと、その買い渋りとか買ったときというの、これは解消していくんじゃないかという気もしていますから、そこを全力挙げて。

それから、さっき、あのときも言いましたけれども、東京にも「M I D E T T E (ミデッテ)」というアンテナショップがありますから、ああいうのをもっと大々的に使って、1か月に1回ぐらいバーゲンセールをやって、やると言って、ぽつんぽつんイベントをやって、その限り終わってしまいますから、だから、さっき言ったように一番のこの消費者の人に常時アピールできるようなことがもっと必要じゃないかなというふうに思います。

(問) 復興再生協議会の冒頭あったマラソンのくだりで、大臣の趣旨はよく理解できたんですけれども、復興の目指すべきところのそのゴールと言うんですかね、大臣としてはどういうふうにゴールというのを描いているのか、どういうふうになればゴールかなというのがもしあればお聞かせください。

(答) これは皆さんがもう福島大丈夫だよと、帰ってこようよということが一つ。それから、今言った、今の農産物など、福島のを皆さんが安心して買っていただけると、そういうのが定着するところ、ところがやっぱり一つの目標だと思っています。

そして、そのためにも今度、復興拠点もつくって、いろんなことをやっていきますから、そこをベースにしながら、とにかくやれることは全てやるということで、さっき言ったようにこれはマラソンでもここが一番の勝負の仕掛けるときだという意味で、全力

を挙げてやっていきたいというふうに思います。

(問) ちなみに、例えば第一原発の廃炉とか、中間貯蔵からの最終処分とか、もちろんそういうのも含まれているというイメージですね。

(答) いや、もちろんそれはそうです。ただ、これは正直言ってなかなか時間のかかる話だから、それはそれとしながらきちんと取り組んでいきますが、それ以外の問題について、今のいろんな風評被害から帰還するというその環境整備、そういったものを是非ピッチを上げていきたいということです。

(問) 今日は農業の生産現場を御覧になられて、農業分野の一番の課題というのは、改めてなんですが、どこだというふうにお感じになられたのでしょうか。

(答) すばらしいものをつくっているのですから、日本の農業というのは。非常に条件不利なところもありますよ。だけど、条件不利ということはある意味じゃ、例えば中山間地にしても、ミネラル分の多いきれいな水とか、あるいは、四季折々の変化、日中昼と夜の温度の変化とか、そういったものがやっぱり美味しいものをつくるバックボーンにもなっているわけですから、そこをしっかりと生かして、とにかく量じゃなくて質ということにもっと我々も価値を、日本人そのものも見出して、農家も見出していくことが大事じゃないかなと。

それを、ある意味じゃ量じゃなくて質ということを、もっともっと海外にも発信してやっていくということで、自信を持ってやればいいと思います。だから、最初言いましたようにあんぽ柿もね、ある意味これは農産物であるのか、大変すばらしい食品加工、何というか、一つのアートですよ。だから、そういうことでこれは頑張っていただければいいと思います。

(以 上)